

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (静岡と世界を繋ぐマイプロジェクトコース)			訪問国	アメリカ合衆国
学校名	静岡県立静岡高校	氏名	中谷里緒	学年	2年

【問い】 静岡の特徴に合ったスポーツ医療の形を模索することで、それらを幅広い世代に応用させるためには誰が何をしたら良いのか考える。

【仮説】 スポーツジムの経営者が割引キャンペーンなど、通りすがりの人にも興味を持ってもらえるようなイベントを実施する。

【探究内容】 赤…見る側からの探究 青…する側からの探究

①スポーツジム訪問

語学学校の近くにあったスポーツクライミングジムを訪問し、実際に体験をした。

また、スタッフ（トレーナー）の方にインタビューを行い、どのような年代の人がこのジムを利用しているのか、頻度はどれくらいの人が多いのかなどインタビューを行った。

②ドジャース観戦（2回）

するのもみるのも好きな人が多いと言われるロサンゼルスで有名なロサンゼルス・ドジャースの観戦に自主的に申し込んだものと学校のアクティビティで2回行き、どのようなサービスが行われているのか探究した。

日本のスポーツ観戦とは異なり、応援グッズというよりは選手のフィギュアが無料でもらえたり、ドリンクを無料で配っていたりと、気軽に楽しめるサービスが多く見られた。また、学校のアクティビティとしてスポーツ観戦が組み込まれていることで1人では行きづらい人も友人と観戦を楽しめたり、興味がなくても誘われて行ってみると意外と楽しくてハマってしまうというケースもみられた。



③語学学校&街中でのインタビュー

語学学校でスポーツ習慣&スポーツ医療に関するインタビューを行った。

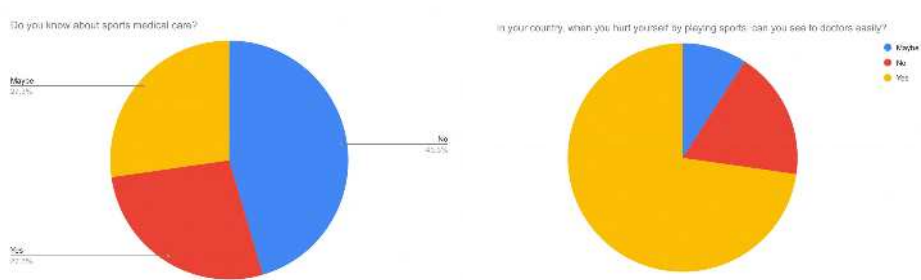
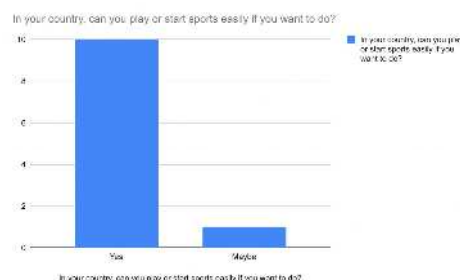
アメリカに住んでいる方だけでなく、語学学校において多国籍の方にインタビューを行うことで先進国と発展途上国のスポーツの実態のギャップや、日本との比較を行うことができた。

④インスタグラム上でのグーグルフォームの公開

さらに多くの国のスポーツ医療の実態を探るためにインスタグラムでグーグルフォームを公開し、さらにトビタテのコミュニティで拡散してもらうことで、多視点からの意見を集めることができた。

質問、結果は以下の通り↓

- ①出身国…国によってどんな違いがあるか探るため
- ②年齢…様々な年代にあったスポーツ医療の形を探るため
- ③スポーツ医療について知っていることはあるか
- ④あなたの国ではスポーツをしたいときにすぐできるか
- ⑤スポーツをして怪我をしたときにすぐ治療を受けられるか



⑤アスリートインタビュー

大学内で出会った方の妹さんがたまたまアスリートの方でインタビューを行うことができた。

↓インタビュー内容

—自分にとってのスポーツ医療— ・専門性のあるアスリートにとってとても大事 ・高校から大学への進学で多くの人がスポーツを辞めるから、大学以上は怪我にめちゃくちゃ気をつける必要がある ・体のことで不安なことがある時に行っていた ・リハビリとか怪我した後の治療とか ・大学に来た時、自分の体が動く範囲とかを測定して、自分の体についてより知ってパフォーマンスを良くできるための治療を受けた

【結果・考察】

《これからの静岡の取り入れるべきこと》 ・スポーツをより身近に感じられるように、スタジアムの中継をするカフェを作ったり、簡易化したジムだけでなく特色に富んだジムを増やしていくこと ・若い世代はアメリカにはない部活やサークルの制度、体育の授業をもっと活用できるよう、大人は仕事とジムが両立できるような環境を作ること